

令和6年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会 議 名	令和6年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日 時	令和7年3月18日(火) 午前10時から正午まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室306
4	委員出席者	伊藤委員、小野委員、城戸委員、笹本委員、西澤委員、三原委員、宮澤委員、 米山委員
6	事務局出席者	三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館 清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、穂高陶芸会館藤 松館長、高橋節郎記念美術館宮沢館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見 文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、児玉博物館担当副主幹、佐野文化振 興担当係長、加藤文化振興担当主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	2人 (うち記者 0人)
9	会議概要作成年月日	令和7年3月24日

協 議 事 項 等	
○会議の概要	
1	開 会 (文化課長)
2	あいさつ (会長)
	■会長
	・日本博物館協会の全国博物館大会の際、参加者に学校ミュージアムを見学してもらったところ好評だった。
	・本協議会で意見が出ると、すぐに各博物館・美術館で反映している。そのことが博物館・美術館の価値を高めている。本日も委員の皆様からお知恵をいただき、市民にとってより良い博物館・美術館になるようにご尽力いただきたい。
	■三澤課長
	・今年度は美術館2館で大規模改修工事を行っている。
	・4月から豊科近代美術館は安曇野市美術館に名称変更する。名称変更に係る条例・改正について議会の承認を経たのち、8月の安曇野市美術館オープンまでに周知を図っていきたい。
3	報告・協議
	令和7年度各館事業計画
	・各館長から報告
	■豊科郷土博物館
	・子供向けの取り組み「昔の暮らし体験 in 博物館」は3年目を迎えた。今年は4日間で子供120人、保護者80人が来た。来年は友の会にボランティアで参加してもらって実施予定。
	・令和8年度に常設展を展示替えして「(仮) 安曇野の水の旅」とする。令和7年度は展示替えの準備を行っていく。

- ・企画展について。夏季・秋季企画展は市制施行20周年記念事業・戦後80年平和事業「日中戦争、太平洋戦争下の安曇野の人々」、春季企画展は「安曇野の観光事始め」。

■豊科近代美術館

- ・運営方針について、常設展示の考え方を大きく変えていこうと思っている。
- ・予算は電気量が1.5倍になる。
- ・常設展示では、安曇野ゆかりの作家の作品に今まで以上に光を当て、郷土の基幹美術館としての色合いを濃くしていく。
- ・無料区間を広げていこうと思っている。開放された空間を作り、またの来館を期待する。
- ・常設展の展示替えをした際には、紹介を兼ねて、学習会や見学会をできればと思っている。

■田淵行男記念館

- ・市制施行20周年および田淵行男生誕120年記念に合わせた事業を予定している。
- ・学校ミュージアムでは、昨年より、作品を見せて説明する形式から、田淵が使っていた型と同じカメラを用いた体験型に取り組んでいる。
- ・市制施行20周年記念では新田樹写真展「サハリン」（仮称）を開催する。
- ・田淵行男賞受賞作品巡回展では、ニコンプラザ東京および大阪を回る。ジュニア賞作品巡回は受賞者の在籍する学校を優先的に巡回する予定。

■飯沼飛行士記念館

- ・館自体は小さいが、入館者と案内人の距離が非常に近い。そういった良い面を前面に出して、わかりやすい解説を継続していきたい。
- ・「ちくに生きものみらい基金」を利用した田淵館への来館申し込みがあった際には、来館先に飯沼館も加えてもらえるよう働きかけていきたい。

■穂高陶芸会館

- ・子供向けの取り組みとしては、親子陶芸教室が好評で、常に満員の状況。令和7年度には3世代陶芸教室を計画している。
- ・地域の子供育成会等の公民館事業に声をかけながら、子供たちが作陶に接する機会を増やしていきたい。
- ・新たな企画として「あじさいの鑑賞をセットにした講座」を検討している。

■高橋節郎記念美術館

- ・設備更新工事を終え、新たなスタートという意味を込め、改めて高橋節郎を紹介する4回の企画展を行う。
- ・体験型を好む来館者が増えていることもあり、簡単沈金講座に力を入れていく。
- ・子供向けの取り組みとして、従来の小中学校での授業に加え、高等学校でも要望があった。
- ・「沈金講座作品公募展」を開催する。芸術部門と簡単部門を設置。講座における制作作品に着目し、広く受講生から自作作品を応募する。

■貞享義民記念館

- ・予算について、当館の修繕が必要になってきたため、工事請負費が多くなっている。
- ・「擬態展2」を独自に企画する。三郷昆虫クラブ世話人の那須野氏と田淵館の中田館長の協力を得て開催。ワークショップも行う。
- ・冬場の来館者を増やす目的として「中林梧竹展」を企画。書等を展示する。
- ・講座等は10個を企画。できるだけ外に出て、当館を知ってもらう。

■臼井吉見文学館

- ・政策経営課や文学館友の会と協力しながら「小説『安曇野』のNHK大河ドラマ化」や復刊された小説『安曇野』の販売促進や利用について取り組む。
- ・友の会活動では新たに「復刊文庫本『安曇野』を読む会」が新設された。館として活動を支援していきたい。
- ・友の会は市制施行20周年事業へ参加し、補助金を活用し、臼井吉見や小説『安曇野』

を取り巻く人物の調査研究を進めたい。

■穂高郷土資料館

- ・勾玉づくり体験が好評。継続していきたい。
- ・安曇野市で唯一の考古資料を展示する施設という特徴を活かし、新市立博物館整備方針検討委員会と連動し、今後の館のあり方を見据えた活動を行う。

■文書館

- ・予算について、令和6年度と比較して、委託料が約500万円増額予定。市誌編さんの原始古代編調査に費用を要する。
- ・企画展は2回を予定。前期は「市制施行20周年記念企画 安曇野市誕生秘話」、後期は「市制施行20周年・戦後80年平和事業 手記80年の時を超えて」

■博物館担当

- ・市誌編さんについては、新たに自然部会が発足した。考古部会では市内4か所の遺跡分布調査を行う。
- ・令和7年度中に博物館施設の整備方針案を提示し、令和8年度に新市立博物館の方向性を決めていく見通し。
- ・予算について、委託料が増額しているのは、新市立博物館の整備や、既存施設の統廃合・改修にかかる費用調査のため。
- ・写真家の堀勝彦氏から寄贈された昆虫標本の整理作業を引き続き進めていく。

■美術館博物館連携事業

- ・学校ミュージアムについて。11～1月に小学校1校、中学校2校で実施予定。
- ・4月中に美術館・博物館年間行事ガイドを作成し、ゴールデンウィーク前に配布予定。
- ・美術館・博物館無料開放を実施し、各施設の周知と利用促進を図る。

・委員より意見

委 員 学校ミュージアムに参加して感動した。市内の小中学生は、在学中の9年間のどこかで必ず学校ミュージアムを体験できるのか。また、本行事の主導は学校であるのか、市であるのか。

事務局 9年間のどこかで必ず学校ミュージアムを体験してもらえるよう、校長会等で働きかけて参加校を選出してもらっている。まずは市から事業提案をし、校長会にて参加校を選出してもらっている。

会 長 各館による説明は年々上手くなってきている。

委 員 博物館担当の予算のうち、委託料430万円が高額かどうかは内容によると思う。新市立博物館整備費用等調査業務はどこに委託するのか。

博物館担当 仕様を少し見直しし、本日、入札により業者が決定した。委託料は430万円の約半額になる見込み。設計、統廃合にかかる具体的な金額を算出してもらうというより、近隣の例を参考に概算額を算出してもらうことにした。

委 員 臼井館の年間入館者数目標について。令和6年度実績の1,210人であるのに対し、令和7年度目標は900人と大幅減。これは阿川佐和子氏講演会による効果が無くなるからか。

臼井吉見文学館 そのとおり。

委 員 同様に貞享義民記念館において今年度実績に対し、来年度目標が減少する理由は。貞享義民 企画講座参加者数については、講座数が減ったため。出前講座については、実際に実施してみないと、参加者数が読めないため。

委 員 学校ミュージアムに参加しての意見3点。1点目、各館とも、児童生徒への興味の持たせ方を工夫していた。2点目、近隣市町村である松本開智学校やちひろ美術館も参加しており、市町村の境を超えた参加館の受け入れがあった。3点目、

	成長期や感受性を磨く年代に向けて実施することで、家族等への波及や、児童生徒の以降の人生にも活きてくる。1点、苦言を呈したい。児童生徒が体育座りで鑑賞していたのに対し、博物館大会の参加者は腕組みして立って鑑賞していた様子に違和感を感じた。大人も児童生徒の目線に立つ気持ちが大切と感じた。
会 長	先ほど伊藤委員から指摘があった目標人数について。多くの入館者がくれば良いというよりも、1つでも入館者の心に残るものがあればということを大切にしていきたい。
委 員	企画の申し込みについて。電話予約が主流となっているが、電話受付時間帯に電話できない人もいる。電子申請サービス等の導入を検討してはどうか。
文書館	信州デジタルコモンズへの登録が義務化された。そこで、文書館のデジタルコモンズについて質問。データベースに登録するのに、要する人数や期間は。
委 員	データの打ち込みは当館の職員7名で行っている。データ登録は完了していても、館内のシステムでのみ閲覧可能な状況。Web上で閲覧可能にするには予算が必要。
委 員	デジタル化することで、全国的に閲覧してもらえる。ぜひ全国の人に閲覧して研究してもらえる環境の整備を。
委 員	デジタル化を進めるために、市としては予算確保等を検討してほしい。
委 員	小中学生に対しては学校ミュージアム等により芸術鑑賞の機会が確保されている。高齢者に対しても美術館・博物館の見学の機会を創出できないか。
会 長	高齢者に対しても配慮していきたい。
委 員	図書館のお話会に参加した際、美術作品に囲まれた中でのお話会だった。すごく魅力的だったので、これからも図書館連携を継続してほしい。なお、子どもたちが美術品に視点を向けるような工夫があればより良かった。図書館連携+αで提案がある。2023年にこども基本法が施行され、「子どもの権利」という視点の絵本がたくさん発行された。人権活動を行っている貞享義民でそのような絵本を置き、親子で読める環境を作ってはどうか。
委 員	高橋節郎記念館の景観が綺麗に保たれている。
委 員	2月に文書館で開催されたバックヤードツアーに参加した。文書館では、古文書が綺麗に整理され、市民の生活に役立っていることを知り、参加者たちは感動していた。文書館が存在すること、地域とのつながりが保たれていることを高く評価する。
委 員	私が今まで提案してきた「ワークショップの回数増加」を実現してくださりありがたい。
委 員	孫がいる世代から見ると、安曇野市は子育てに好ましい環境が整備されている。例えば、屋外保育、学校ミュージアムなど。これは都市部の人にも響く魅力ではないかと思う。このような良い面をアピールしていくことで、トータルで良い方向に進んでいくのではないか。
委 員	市の風景を守っていけるように、国に認定してもらえるように動いていきたい。
4 その他	
■市博物館条例及び施行規則の改正について	
事務局	改正のメインは「豊科近代美術館」を「安曇野市美術館」に名称変更すること。また、休館日自体に変更はないが、休館日に関する記載をわかりやすく変更した。
■意見	
委 員	足がない高齢者に対し、美術館・博物館に行けるようなバス等を手配するのはどうか。

事務局	そのような意見は以前から出ており、バスの運行を検討したこともあったが、ほとんど利用者がいなかった。よって、行き先を美術館・博物館に絞ったバスの運行は少し現実的ではない。市で運用しているあづみん・のるーと安曇野（希望する乗車場所・降車場所を運行する乗り合いタクシー）の活用を勧める。現状、70歳以上は入館料無料等の配慮もある。今後、高齢者への配慮については議論していきたい。
委員長	複数の区民をまとめて公民館で拾ってもらうような運行はどうか。 挙げていただいた意見は、予算や公民館活動にも絡んでくる。提案は改めて書面により提出していただき、市教育委員会及びほかの部署と協議していく。
5 閉 会	
以上	

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。